

8/26-27

「東京高円寺阿波おどり大会」に参加 新たな友好の絆を深める

友好交流都市の東京都杉並区で開催された「東京高円寺阿波おどり大会」に名寄市から訪問団が派遣され、阿波おどりを通して交流を深めました。

50回の節目を迎えたこの大会は、西は徳島、東は高円寺と本場徳島に劣らず全国的にも知られ、2日間で踊り手1万2千人、観客120万人を動員する大イベントです。

名寄市からは旧風連町時代から数え15回目の参加となり、小室副市長を団長に田中市会議長ほか、名寄地区からの参加者も含めて32人が参加し、旧風連町から引き継いだ友好の絆をさらに深め、杉並区民の皆さんに新「名寄市」をアピールしました。

また、東京なよろ会からの激励も受け、参加者は沿道の皆さんからの声援と合わせ感激いっぱいの様子でした。



8/27

第28回なよろ産業まつり 多くの来場者で賑わう

新名寄市誕生記念第28回なよろ産業まつりが、なよろ健康の森で行われ、市内外から大勢の人々が会場を訪れました。

晴天が広がる中、会場には、新鮮な野菜などの販売、乳しぼり体験コーナー、トラクター馬車など多彩な催しが行われました。

今年は、もち米作付面積日本一を記念して、1俵（60キログラム）のもち米を使ったもちつきが行われました。直径3.2メートルの石臼に広がったもち米を、まずは子どもたちが小さな杵を使って突き、その後フォークリフトで直径40センチメートルの丸太を杵として吊り上げ、来場者の「よいしょー！」の掛け声に合わせて突き上げました。

また、3人1組で100キログラムの牧草ロールを50メートル転がすタイムレース「牧草ロール転がしレース」には20チームが参加。3人で力を合わせ、ゴールを目指す姿に会場からは拍手や歓声が上がっていました。

9/6 ランプシェード作り講習会

北国博物館主催「ランプシェード作り講習会」が、同館で行われ、昼の部に5人、夜の部に10人が参加しました。型は、名寄土管製作所の協力で作った名寄産の土を使った土管を使用しました。参加者は、中のろうそくの明かりがどのように漏れるかなどを想像しながら、土管にカッターや型抜きなどを使い穴を開けたり、模様を付けて作品を作り上げていきました。

作品は、同館で一時預かり、土管工場で焼き上げたあと、9月27日から10月8日までの期間、同館で展示しています。



市は、安全・安心のまちづくりに向けて、自然災害などの緊急時には直ちに必要な情報を市民に伝える緊急放送システムを整備しました。

このシステムは、エフエム放送局の「Airてっし」と提携して実現したもので、市役所名寄庁舎内に「緊急割り込み放送装置」を設置し、市災害対策本部が設置されたときなどの緊急時に、この装置を使って同庁舎から直接、緊急放送を流すことができます。



9/1 緊急放送システムを整備 災害時に備えて

9/14 ピヤシリ大学体育祭

ピヤシリ大学（学長・藤原忠教育長）の第27回体育祭が、浅江島公園多目的広場で行われ、学生108人が参加しました。

この日は、絶好の運動会日和。赤組・白組に分かれた学生たちは、風船割りの「ケツ圧は大丈夫？」などの個人競技3種目、グランドゴルフフリーの「いくつ叩くの!？」などの団体5種目で白熱した競技を繰り広げ、その後は盆踊りを楽しみました。

同大名物の「長靴飛ばし」では、選手が靴を飛ばす度に笑い声や歓声が起こるなど、会場は和やかな雰囲気になっていました。

